



KDDI 総研 R&A 誌は定期購読（年間 27,468 円）がお得です。お申し込みは、KDDI 総研ブックオンデマンドサービスまで。既刊の PDF 無料ダウンロードの特典もあります。

(<http://www.bookpark.ne.jp/kddi/>)

BT、FMC 型サービス「BT Fusion」開始

◇ KDDI総研R&A

2005年8月

BT、FMC型サービス「BT Fusion」を開始

🕒 記事のポイント

サマリー 2005年6月15日、BTはかねてから注目されていたFMC型サービス「BT Fusion」を発表した。2003年夏に「Bluephone」プロジェクトとしてその構想が発表されてから、約2年がかりで実現に至ったBT Fusionであるが、BTのADSLユーザーであることが利用条件となるなど、ネットワークのIP化を推進するBTにとっての戦略的サービスとなっている。また、英国においてブロードバンド・サービスのニーズが急速に高まっていることから、既存ユーザーの囲い込みという「守備」ではなく、新規顧客開拓という「攻撃」の切り札となる可能性も見えてきた。当面は約400ユーザーを対象とした限定的な提供となるが、本稿では本格的なサービス開始を9月に控えたBT Fusionについて簡単に紹介する。

主な登場者 BT Motorola Nokia Samsung

キーワード モバイル FMC FMS Bluetooth Wi-Fi SIP

地域 英国

執筆者 KDDI総研 主任研究員 青沼 真美 (ma-aonuma@kddi.com)

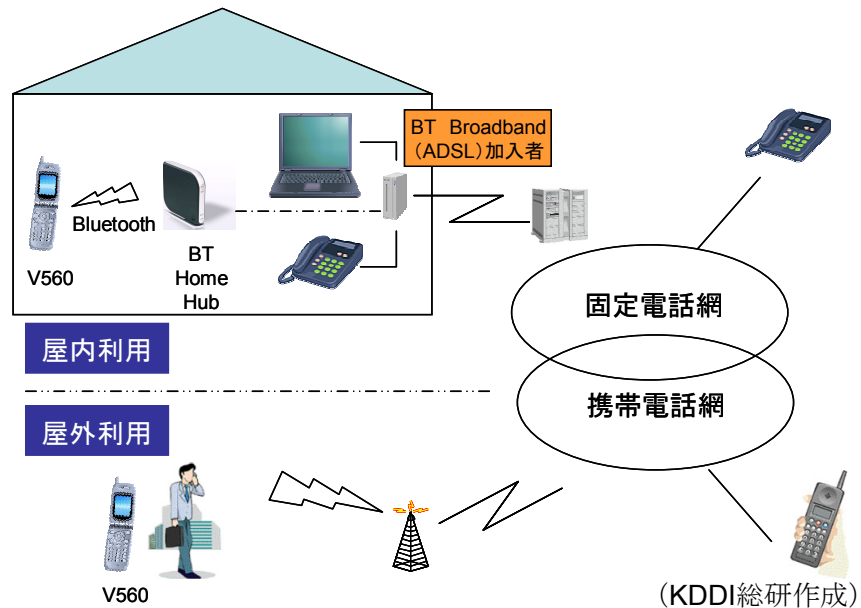
1 BT Fusion 開始

1-1 サービス概要

2005年6月15日、BTはFMC型サービス「BT Fusion」を発表した。BT Fusionは、専用端末とアクセスポイントとなる「BT Home Hub（以下「Home Hub）」によっ

て、屋内（[脚注1](#)）から発信する際には自動的にBTの固定網が選択され、外出時には通常の携帯電話として利用できるサービスである。図表1はBT Fusionのサービスイメージを示している。

【図表1】 BT Fusionの利用形態



BT Fusion契約者には、Motorola製の専用端末V560とHome Hubが無料配布される。当面、BT Fusionに対応する端末は図表2のV560のみであるが、BTは他ベンダーの端末も順次導入する計画である（[脚注2](#)）。また、Home Hubには、PCやプリンター、ゲーム機などの関連機器を10台まで接続することができるため、家庭内無線LAN用ルーターとしても機能することになる。



（脚注1）

Home Hubから約20～25メートル前後がBT Fusionのカバーエリア（Home Hub圏内）とされている。

（脚注2）

同じくMotorola製で、より洗練されたデザインの上位機種端末RAZRが今秋にも導入されるほか、NokiaやSamsungと後述するWi-Fi対応型端末の共同開発を進めている。なお、これまでに実施された試験運用の際には、Sony Ericsson製の端末が使用されていた。

BT、FMC 型サービス「BT Fusion」開始

【図表2】 BT Fusion対応端末 V560



(出典：BTホームページ)

対応ネットワーク	GSM 800/900/1800/1900
データ通信	GPRS
カメラ	30万画素
サイズ	88×49×25mm 115グラム
Bluetooth	対応
赤外線通信	非対応

(各種資料によりKDDI総研作成)

1-2 利用条件 ～ BTのADSLサービス利用が前提

BT Fusionは、BTのADSLサービス「BT Broadband」を利用していることが契約条件となっている。したがって、BT Fusionユーザーは、加入者回線、ADSL、Fusionと、BTの3つのサービスを利用することになる。なお、本格的なサービス提供が開始される2005年9月までは、BTは約400人のパイロットユーザーのみを対象にBT Fusionを提供する。

1-3 料金体系

BT Fusionのパイロットユーザーに適用される通話料金^(脚注)は、Home Hub圏内から英国内の固定電話宛に通話する場合には、オフピーク時に最大1時間まで5.5ペンス(約10.8円)^(換算率)、ピーク時は3ペンス(約6円)／分となっている。なお、超過分については、従来のBTの固定電話サービスに基づく料金(割引サービスを提供しない平日昼間の時間帯の場合、5ペンス／分)が課金される。また、Home Hub圏内から携帯電話宛に発信する場合、あるいは、Home Hub圏外から発信する場合に



(脚注)

一部メディアは、BT Fusionが本格的に開始される際には、①月額9.99ポンド(約1,967円)で無料通話100分を含む「Fusion100」、または、②月額14.99ポンド(約2,955円)で無料通話200分を含む「Fusion200」、という2つの料金パッケージが提供されるだろう、と報じている。

(換算率)

1ポンド(英) = 197.13円 (2005年6月1日付東京市場TTMレート)

は、固定電話・携帯電話宛いずれもBTが提供する携帯電話サービス「BT Mobile」の料金が適用される。

一方、BT Fusionのユーザーに電話をかける場合には、FusionユーザーがHome Hub圏内にいる場合も、発信者には各社の携帯電話宛料金が課金されるため、発信者側のコストは固定番号宛の料金よりも高くなる。しかしながら、BTでは、BT Fusionは固定電話の継続利用を前提としているため、発信者側に与えるコスト面でのデメリットはそれほど大きくはないだろう、としている。

このBT Fusionの料金水準であるが、BT Mobileの一般ユーザー向けパッケージと比較してみても、相当低いレベルとなっている。無料通話60分が含まれている「BT60」の場合、月額利用料は18ポンド（約3,548円）である。一方、単純に通話料金だけの比較になるものの、BT Fusionで60分通話した場合、オフピーク時には5.5ペンス（約10.8円）、ピーク時には1.8ポンド（約355円）にすぎない。BTでは、屋内で携帯電話を利用する際に、回線切断など通話品質の低下を経験しているユーザーが多いことを指摘しており、屋内においてもモビリティと高品質・低価格のサービスを提供するBT Fusionは、他社の携帯電話サービス利用者に対しても訴求力がある、としてその優位性を強調している。

2 本格提供に向けて

2-1 小規模企業もターゲットに

BTは、個人ユーザーと同様に小規模企業をターゲットとしている。これは、Home Hub 1台で最大6ユーザーまで契約できること、また、最大3ユーザーまで同時通話が可能である特性を活かしたものであり、BTは、1事業所あたりの従業員数が6人未満の企業・店舗等に特化した料金パッケージを9月までに正式発表することになる。

2-2 本格的な企業向けサービスも予定

さらに、BTは企業ユーザー向けFMC型サービスも検討している。今般発表されたBT Fusionは、固定網への無線アクセス方式としてBluetoothを採用しているが、企業ユーザー向けにはWi-Fi対応型のサービスを計画しており、Wi-Fi/SIPに対応したデュアルモード端末の開発を進めている。BTでは、2006年のサービス開始を目途としているが、現状ではまだ技術的な課題を抱えているほか、企業ユーザー向けサービスに不可欠な統合ビルディングにも対応していないため、商用化に向けて解決すべき課題が残されているのが現状といえる。

 執筆者コメント

2003年夏に鳴り物入りで発表された、いわゆる「Bluephone」プロジェクトがBT Fusionとして遂にそのベールを脱いだ。構想発表から2年を経たFMC型サービスは、特に各国の固定電気通信事業者から大きな期待をもって注目されてきたわけだが、度重なるサービス延期の末に、9月からの本格提供を控えた限定的なサービスとして発表されたこと、正式な料金は未発表であることなどもあり、業界全体の評価は「本格サービスの開始待ち」のように思われる。BTの株価をみると、この2年ぐらいのレンジでは値上がり基調にあるとはいえ、BT Fusionが発表された6月15日の終値は前日の4ペンス安の218.5ペンスであり、その後も22日まで値下がり傾向が続いていたことから、様子見といえるだろう。

とはいうものの、BTが、社運と相当額の資本をかけたBT Fusionによって、固定通信網と携帯電話網の技術的な融合を実現し、新たな通信の形態として先進的なサービス・コンセプトを提示した意義は大きい。固定通信事業者にとってのFMC型サービスは、携帯電話が固定電話の補完手段から代替手段へとその位置づけを変えつつあることを受けて、携帯電話の利便性を維持したままで、固定通信サービスの利用喚起あるいは回帰を図るための、戦略的サービスとして位置づけられている。特に、BT Fusionは、BTが2004年6月に発表した固定電話網のIP化計画「21st Century Network」の一環としてブロードバンドの利用喚起を図るサービスでもある。その反面、対象ユーザーが自社のADSLサービス「BT Broadband」の契約者（脚注）に限定されているという意味において、あくまでも既存ユーザーの囲い込みを目的とした、Defensive Strategyのようにも見受けられる。

一方で、英国におけるブロードバンド・サービスの市場環境にも注目する必要がある。Telecom Market誌（2005.4.19）によれば、2004年末時点での英国のDSL加入者は417万強であり、2004年6月末時点の271万から約54%の増加となった。固定電話利用者に占めるブロードバンド・サービスの普及率も、同じく19.9%から24.3%に伸びており、ブロードバンド化の急速な進展が見てとれる。この追い風に乗ってADSLの新規加入者を獲得し、既存の携帯電話サービスによる利便性と高品質・低価格なサービスによって、従来の携帯電話利用者を取り込むことができれば、BT FusionはOffensive Strategyとしての色合いをより強くすることになるだろう。



（脚注） 2005年6月時点でのBT Broadband契約者は約130万とされている。

その意味でも、BTが本格提供に向けて、どのような料金プランやサービスパッケージを提示するのか、あるいは、既存の携帯電話サービスと遜色のない端末ラインナップを充実させていくのかが、サービスとしての成否を左右する鍵を握ることになるのではないだろうか。9月の本格サービス開始についての正式発表が待たれるところである。

出典・参考文献

BTホームページ <http://www.bt.com>

Telecom Market (2005.4.19)

Total Telecom <http://www.totaltele.com>

その他各種報道資料